



歓盛寺住職 仙田智治師



歓盛寺の境内にある「二塚よりどころ」

デイサービス(共生型)を採用した。この共生型が、老若男女の相互作用を生んでいるとのこと。実際に、高齢者が子供たちをあやしたり、子供たちが高齢者と遊ぶことで主体的な役割ができ、家族のような絆で結ばれているという。NPO法人「二塚よりどころ」の目指すものは、老いること、育つこと、できなくなること、できるようにすること、楽しみと喜び、苦しみと悲しみ、それぞれの場面で必要なとき、必要だけ寄り添うこと。職員と利用者といった隔てがなく、地域の中にある大きな家族を目指して、みんなで暮らしていくことだと仙田師は言う。

次に、お寺が果たすべき社会貢献を尋ねたところ、「特別なことをするのはなく、一般の人々と同じ目線で今の困りごとに向き合っていくべきです。私の場合は、それを広くするために色々な制度を活用してきました。社会に認知される活動を持つべきかと思いますが、一番大事なのは、僧侶として目の前の求め、苦しみに応じていく菩薩行を行っていくことだと思っています。仏道が根底にあるべきで、公益性



明るい家庭のような施設内

を世が求めているから何かするのではなく、自発的に行動を起こし、それが仏道にかなうかどうかを考え、またそれを続けていけるかが大事です。そうすれば、自然と社会貢献に繋がっていくと思います」と、仙田師は自身の経験を踏まえて語ってくれた。

次に「NPO法人「二塚よりどころ」の運営の仕方について尋ねた。」まず運営の前提として、お寺には檀家制度があります。そのため、多くの方がそれ以上のことをしようと思わないし、まわりも同じ考えですので、簡単には認められません。そのため、私はまわりの理解を得るために趣意書を作成し、どうしてこのようなことをしようと考えたのかを明確にしました。当然お金も必要です。NPO法人だからといって大きな減免があるわけではありません。介護保険制度を使うことである程度は安定的な活動はできますが、僧侶としてはそれがメインではなく、障がいのある方ですとか、通常受け入れが困難な方の受け入れ場所になればいいと思います。自主事業とし

て受け入れると資金運営面では厳しくなり、それなりの覚悟が必要です。資金は銀行以外にも私募債をまわりのお寺さんや一般の方から募りました。仙田師はこのように、これまでの苦労を語ってくれた。「今後の寺院のあるべき姿は？」という問いには、きっぱりと「お寺のありかたは今も昔も変わりません」と答えられた。さらに「お寺はいつの時代も人々の苦しみに応えてきました。今後も、人々のニーズに応えるためにどうするか探るべきです。私たちはこのことを、もがく力と呼んでいます。このもがく力そのものがお寺のあるべき姿です。お寺で活動する住職や寺族がお寺であり、活動する人たちがもがいて、まわりの人の期待に応えていくことが大切です」

最後に宗侶が日頃から実践すべきことを尋ねたところ「どのような人でも、他人だけと身内のような関係を築いていくことが理想ではないでしょうか。他人行儀も大事ですが、もっと積極的に他人と深く関わらなければなりません。多少馴れ馴れしいと思われてもいいと思いますし、僧侶としての立場を逆にして活用して意図的にアプローチしていくべきだと思います」と、若い宗侶たちに期待を込めて語ってくれた。

(取材 文川口高裕(広報委員会委託委員))

NPO法人 二塚よりどころ

住所◎
〒933-0816 富山県高岡市二塚1316
電話番号◎0766-63-1212
Fax番号◎0766-63-7272
E-mailアドレス◎
yoridokoro2005@yahoo.co.jp
ホームページ◎
<http://www.29po.com/business/print.php?b=321>
法人形態◎特定非営利活動(NPO)法人
代表者◎仙田智治師
設立年月日◎平成18年12月
主な活動内容◎富山型デイサービス(通所介護)、ショートステイ(短期入所)、障がいのある方や緊急の方、補導委託の受入れ
入所者数◎デイサービス(定員10名)、ショートステイ(定員6名)